

人も自然も共に生きる

# ESD×生物多様性しんぶん

2010年冬号

photo: 環境教育NPO法人くすの木自然館

ESD-Jでは、生物多様性保全と生業を両立させる国内の取り組みを、人づくりの視点から文書化し、事例をもとにハンドブックや生物多様性条約第10回締結国会議への提言を作成する「ESD×生物多様性」プロジェクトを実施中。この「しんぶん」で、プロジェクト成果や関連情報を紹介しています(季刊発行)。

## 事例ヒアリングレポート

### オホーツク・紋別ESDツアー



復元された上藻別駅通所では、東洋一といわれた鴻之舞金山の歴史も展示。閉山後40年の今も、莫大な費用をかけ、鉱山跡地から出て来る汚水を処理する作業が続く。



三室番屋では、昭和初期までのサケ・ニシン漁やホタテの養殖の様子などを聞き、当時使われていた道具や衣類も見せていただく。



流水科学センター外のオブジェ。ピンクの棒は毎年の平均気温、水色の棒は毎年の流水の量を表す。年々、気温が上がる一方、流水が減っている。流水が作ってきた豊かな生態系も消失しつつある。



藻別川で、「マレク」を使ってサケを獲る畠山さん。追い込み漁で捕獲したサケの一部を、畠山さんが「自然のほかの生き物に返すんだ」といって、川に戻していた。

オホーツク海沿岸の紋別市では、長年漁業を営んできた畠山敏さんの、アイヌ民族の復権と海を守るための思いにひきつけた持続可能な地域づくりが始まりつつあります。さっぽろ自由学校「遊」は、この中で関係者が互いに学びあっていくプロセスを、ESDとして取り上げ、「ESD×生物多様性」プロジェクトの事例として紹介する予定です。

持続可能な紋別を探る最初の一步として、2009年9月、「遊」は、オホーツク・紋別ESDツアー「オホーツクの森と海、そしてアイヌ民族の歴史と現在」を実施しました\*。ツアーでは、紋別の自然環境や文化について地域の方々からお話を聞いたほか、アイヌの伝統的な手法を取り入れたサケ漁を体験。その中で、改めて畠山さんのお話を聞き、その活動の意義について理解を深めることができました。

畠山さんのお話には、2つのメッセージが込められていました。ひとつは、海を中心とした紋別で、経済活動を成り立たせながら、持続可能な形で海の資源を使っていくことがこれからの地域をつくっていく

うえで求められていくこと。もうひとつは、長い歴史の中で伝統的に資源をうまく活用しながら、人と自然が折り合って生きていたアイヌの自然観に、これからの持続可能な地域づくりのヒントがあり、この自然観を現在の地域づくりの中にうまく融合していくことが、これまで長い間失われていたアイヌの人びとの尊厳と民族としての権利の回復にもつながるのではないかということでした。

ツアーの経験を踏まえ、「遊」は、2010年2月末にワークショップを企画しています。ワークショップでは、畠山さんのアイヌ民族としての思いや、持続可能な紋別にむけて既に取り組まれている活動を地域の人びとと共有すると共に、先住民族の視点を地域づくりに取り入れていくことが、地域の自然の保全と人の生業との両立やアイヌ民族の尊厳や権利の回復にどう結びつくのか、そして尊厳や権利の回復が、現代の社会の中で一体どのような意味を持つのかを共に考え、今後の活動の方向性を、一緒に探っていきます。

(開催概要は裏面参照)

#### 他の地域でも文書化のためのヒアリングが進んでいます!

本プロジェクトでは、国内10地域のESD-J会員が窓口となり、生物多様性保全と生業・暮らしを両立させるような地域づくりの活動を、教育的視点から取材し、文書化を進めています。今回紹介の紋別以外にも、2009年11月～2010年1月の間に、香川県豊島(地域窓口担当: いきいき小豆島)、鹿児島県重富干潟(地域窓口担当: くすの木自然館)、群馬県赤谷(地域窓口担当: NACS-J)の取材にESD-J事務局が同行しました。



有機農業・牧場を営む草鹿さんは、所有の森を「アイヌ伝承の森」と名付け、アイヌの文化活動のために提供。近隣の森に産廃建設が計画されており、森、海の自然生態系への影響に不安を抱く。



ツアー最後のワークショップでは、ツアーの成果を整理し、紋別や北海道の地域づくりにどう活かすかを議論。

\*このツアーは、環境省北海道環境パートナーシップオフィスおよびNPO法人アジア太平洋資料センターの協力により、実施されました。



# 参加者募集! 「ESD×生物多様性」全国フォーラム開催.....

**生** 物多様性を大切にしたい地域づくり・社会づくりにつながる人づくり (=ESD)の実践から、そのカギとなる考え方や視点、ノウハウ、そしてそれらを可能にする社会制度の在り方などを探る「ESD×生物多様性プロジェクト」。今年10月に開催される生物多様性条約COP10への提言づくりに向けたステップとして、地域の実践事例やワークショップから浮かび上がってきたポイントを共有し議論する、全国フォーラムを開催します。全国10地域からすてきな実践者を招いてのディスカッションに、ぜひご参加ください。

## ■地域ワークショップも続々開催

**今** 年1月から6月にかけて、全国9ブロックでも「ESD×生物多様性」地域ワークショップを開催します。現在3月までに開催日程が確定している地域は以下の通りです。各地でお会いできるのを楽しみにしています。

### 北陸ワークショップ in 金沢

北陸における里山保全等による生物多様性保全に関するワークショップ  
日時:2010年2月7日(日) 13:00 ~ 17:00  
会場:石川県生涯学習センター(金沢市広坂) 35号会議室  
地域開催団体:金沢大学/NPO法人いしかわ自然体験支援隊  
お問合せ:Tel.076-240-3246

### 北海道ワークショップ in 紋別

持続可能な紋別に向けて  
～アイヌ民族の権利回復が今の社会に示すもの～  
日時:2010年2月26日(金) 18:30 ~ 27日(土) 15:30  
会場:紋別市オホーツク交流センター 多目的ホール  
地域開催団体:NPO法人さっぽろ自由学校「遊」  
お問合せ:TEL.011-252-6752

### \*近畿ワークショップ in 京都

～存在するすべてのものには役割がある、それを活かすことが地域の力を育む～は、1月15日に開催いたしました。

日時:2010年2月13日(土) 10:00 ~ 17:00 (17:30 ~ 19:00懇親会)  
会場:ガールスカウト会館(東京都渋谷区)  
参加者:ESD-J会員、  
生物多様性を大切にしたい地域づくり・人づくりに関心を持つ方々  
参加費:会員・学生1,500円 非会員3,000円(昼食代込)  
(別途、懇親会費2,000円)  
内容:・ESD×生物多様性プロジェクトが目指すもの-ESD-Jより  
・CBD/COP10に向けた市民セクターの動き-名古屋より  
・地域の取り組み報告  
～10地域の実践およびワークショップより～  
・全体ディスカッション  
お申し込み:ウェブサイト、e-mail(esd\_cbd@esd-j.org)もしくはFAXにて、下記内容を記入し、ESD-Jまでお申し込みください。締切2月7日(火)。  
お名前(ふりがな)、ご連絡先(住所、電話、e-mail)、ご所属、ESD-J会員種別、懇親会への参加の有無、フォーラムに期待すること。  
\*2歳以上のお子さんを対象に託児がつけます。(事前登録が必要です)

## せいぶつたようせいQ&A.....

### 生物多様性条約COP10に向けて、日本のNGOはどんな活動をしていますか?

回答者▶

生物多様性条約市民ネットワーク 運営委員

原野スキマサさん



生きものも人間も  
幸せになる  
仕組みをつくらう。

生物多様性条約  
市民ネットワーク

CBD市民ネットのスローガンとロゴマーク(ダブルメガホン)

CBD市民ネット <http://www.cbdnet.jp/>  
連絡先 jcnforcbd@gmail.com

**日** 本は生物多様性条約(CBD)第10回締約国会議(COP10)および第5回カルタヘナ議定書会議(MOP 5)のホスト国。日本の市民社会もこの会議の成功、つまり生物多様性の保全と持続可能な利用の促進、遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)に必要な行動が発展するような合意形成に向けて取り組むことが期待されています。

この期待に応えるために、2009年1月、生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)が設立されました。CBD市民ネットは正会員(団体)とサポート会員(団体・個人)で構成されますが、環境系NGOだけでなく貧困・開発、人権・平和などにかかわる国際協力系NGO、さらに研究者、メディア関係者や企業など多様な団体・個人が参加しています。

CBD市民ネットの活動内容は以下の3つです。①市民社会の多様な主体間の情報共有の場をつくり、普及啓発し、市民参加の場を確保する「基盤づくり」、②海外のNGOと連携してCOP10/MOP 5での活動をサポートしたり、自ら提言や働きかけ

を行う「条約交渉への関わり」、③CBD市民ネット参加者を増やし、交流する「主体の拡大と交流」です。

こうした活動は、おもに運営委員会と作業部会が中心となって展開しています。

作業部会には、湿地、沿岸・海洋、水田、MOP 5、TEEB(生態系と生物多様性の経済学)、ABS、生命地域(流域)、生物多様性保全法制度などテーマ別の活動を行うもの、普及啓発などのタスク別のもの、そして地域の活動を取りまとめるものがあります。

運営委員会はこうした作業部会間の活動調整や事業計画などを検討・実施するほか、政府やCOP10支援実行委員会、生物多様性条約事務局や国際的なNGOネットワークなどと意見交換を行っています。そして、2010年10月のCOP10/MOP 5開催に向けて、国内各地での地域ワークショップの開催、国際生物多様性の日(5月22日)や開催100日前イベント(7月頃)、開催直前のNGO会合や会期中のさまざまなイベントなどを開催する予定です。



発行:特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)  
編集:ESD-J地域プロジェクトチーム <http://www.esd-j.org> e-mail: admin@esd-j.org  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554



この印刷物は、平成21年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。

レイアウト:宮部浩司